



カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：光のアート

トビアス・デームゲン氏は、「光」と「アート」をテーマに、個人の創作活動やアーティスト集団「RaumZeitPiraten (時間と空間のパイレーツ)」でのプロジェクトを行なっています。同じく「光」が重要なキーワードとなる能動的な空間インスタレーションを制作している日本の美術家クワクボリョウタ氏とともに、このような「光のアート」では、光と影の関係性はどのように作り出され、公共空間のダイナミクスにどのような可能性が生み出されるのかを話し合います。



トビアス・デームゲン (美術家)
Tobias Daemgen (Bildender Künstler)

1980年生まれ。デュッセルドルフとケルンでコミュニケーションデザインとメディアアートを学んだ。「光」に重点を置き、マルチメディアを用いたインスタレーション作品の制作や介入を活発に行なう。欧州各地の他、ロシア、中国、韓国などでも展示。アーティスト集団「RaumZeitPiraten (時間と空間のパイレーツ)」メンバー。ウィラ鴨川滞在中は、日常生活や文化・商業分野などでの「光」の芸術的可能性をテーマに創作を行なう予定。raumzeitpiraten.com



クワクボ リョウタ (美術家)
Ryota Kuwakubo (Bildender Künstler)

現代美術を学んだ後、98年に明和電機との共作「ビットマン」を制作し、エレクトロニクスを使用した作品制作活動を開始。以来「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出した。2010年発表のインスタレーション「10番目の感傷(点・線・面)」以降は、光と影によって観る人自身が内面で体験を紡ぎ出すような作品に着手している。その他の代表作に「ビデオバルブ」、「PLX」や「ニコダマ」などがある。情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授。ryotakuwakubo.com

© Dieter M. Gräf

第2部：文学を超えて

吉増剛造氏とディーター・M・グレーフ氏は、詩を起点にしながら、他の媒体を用いた表現活動も行なっています。何がふたりを文学以外のメディアや技術を使った創作活動へとつき動かしたのでしょうか？ 両氏にとって、文学と文学以外のジャンルはどのような関係にあるのでしょうか？ それらは、他の手段を用いた「詩的表現の続き」なののでしょうか、それとも、まったく異なるものなのでしょうか？ ふたりの作家が、それぞれの芸術に対する姿勢や、文学の嗜好、日本とドイツの詩の状況などについて語り合います。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では滞在中のドイツの芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



© Renate von Mangoldt

ディーター・M・グレーフ (作家、詩人)
Dieter M. Gräf (Schriftsteller)

1960年生まれ。ベルリン在住。1985年より詩集やカタログなどを発表し、世界各地に滞在しながら創作活動を行なう。2012/13年、ライプツィヒ・ドイツ文学研究所客員教授。2014年、自身で撮影した写真を用いて、文学と美術の境界領域での展覧会を行なった。ウィラ鴨川滞在中は、日本の文化・社会・美意識に関わりながら、自身の視覚・聴覚・嗅覚がとらえる未知の体験をテキストの構造に取り込み、ドイツ語の詩で表現する予定。dmgräf.wixsite.com/hybridpoetry



吉増 剛造 (詩人)
Gozo Yoshimasu (Lyriker)

1939年東京生まれ。慶応義塾大学在学中より詩作を始め、24歳のとき詩集『出発』でデビュー。以後先鋭的な現代詩人として国内外で活躍。朗読パフォーマンスの先駆者であり、現代美術や音楽とのコラボ、写真や映像などの活動も意欲的に展開。2000年にフランスで写真展『バランブセストの庭』、2016年に東京国立近代美術館で『声ノマ 全身詩人、吉増剛造展』開催。主な詩集に『黄金詩篇』『螺旋歌』『裸のメモ』『怪物君』など。



小崎 哲哉 (司会、構成)
Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART iT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいとりエンターレ2013の『パフォーミングアーツ統括プロデューサー』を担当した。2014年冬、編著書『続・百年の愚行』を刊行。realkyoto.jp



主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自で負担ください)



**GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA**